

[16_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468061>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 16 (1), 1983-01-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

Q&A

この欄には、センター利用に関する質問と回答を掲載している。質問はQで示し、回答はAで示す。Qの後の5桁の数字（質問番号）は、最初の2桁が広報の巻を、次の1桁が号を、最後の2桁がその号での質問通し番号を示している。なお、センター利用についての質問には、業務係（電話 2518）または受付（センター2階、電話 2520）に用意している質問票をご利用下さい。

Q160101 LOGコマンドによる自動ロギング中にCLOCK命令を実行すると結果がおかしい。

A LOGコマンドをレベルアップしましたので、LOG情報収集中にCLOCK命令を使用できるようになりました。

Q160102 HRECOVERコマンドによるデータセットの復元ができない。

A HBACKDSコマンドでバックアップしたデータセットを、HRECOVERコマンドで復元する場合には元のデータセットがなければ復元できません。元のデータセットが存在しない場合には次の方法により復元できます。

```
ALLOCATE DA (データセット名) NEW CA
HRECOVER データセット名 NEW (仮データセット名)
RESET
DELETE データセット名
RENAME 仮データセット名 データセット名
```

なお、バックアップされたデータセットはセンターの都合で強制的に消却する場合があります。

Q160103 バッチモードTMPをジョブクラスBで実行させたところ、出力行数4000行で打ち切られた。

A バッチモードTMPによる制限値も実行するジョブクラスの制限値が適用されます。ただし計算結果の出力先のジョブ制御文を指定しないとTSSの制限値が適用されますので、DD名がわかっている場合にはDD文を追加してください。

Q160104 バッチモードTMPでTSSコマンドを実行させる場合、Xコマンドを使用するとエラーになる。

A バッチモードTMPでは、XコマンドはOSの仕様で禁止されています。変更は困難に思われますので当分の間使用できません。